

食品安全委員会の３月の運営について

１．食品安全委員会の開催

第421回 ３月１日（木）

（１）食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

農薬（２２品目）	2,6-ジフルオロ安息香酸、N-(2-エチルヘキシル)-8,9,10-トリノルボルン-5-エン-2,3-ジカルボキシイミド、XMC、アザフェニジン、アリドクロール、イサゾホス、エチオフェンカルブ、エトリムホス、クロプロップ、クロルフェンソン、ジクロン、シノスルフロン、ジメピペレート、テレフタル酸銅、トリクラミド、ナプロアニリド、ハルフェンプロックス、ピペロホス、ピリフェノックス、プロパホス、ブロモクロロメタン、ヘキサフルムロン
動物用医薬品（１１品目）	ナリジクス酸、パルベンダゾール、イソメタミジウム、クロサンテル、クロルプロマジン、ジエチルスチルベストロール、ジクラズリル、ジメトリダゾール、トリクラベンダゾール、メトロニダゾール、ロニダゾール
農薬及び動物用医薬品（１品目）	フェニトロチオン

- ・農薬２２品目及び動物用医薬品２品目（ナリジクス酸及びパルベンダゾール）については、国内外において、食用及び飼料の用に供される農作物並びに食用に供される動物及び食用に供される乳、卵等の生産物を生産している動物に使用されていないことを前提とした場合、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第１１条第１項第２号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当することが確認され、事務局において手続を行うこととなった。

（２）遺伝子組換え食品等専門調査会における審議結果についての報告

- ・同専門調査会から報告された以下の案件について、国民からの意見・情報の募集に着手することを決定。

遺伝子組換え食品等（１品目）	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシBt11系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR162系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシGA21系統からなる組合せのすべての掛け合わせ品種（スイートコーン）
----------------	---

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

農薬（６品目）	クロチアニジン、チアメトキサム、クレソキシムメチル、テブフロキン、ビキサフェン、フルトリアホール
遺伝子組換え食品等（５品目）	DP-No. 1株を利用して生産されたアスパルテーム、BDS株を利用して生産されたL-セリン、RGB株を利用して生産されたL-アルギニン、CN01-0118株を利用して生産された5'-イノシン酸二ナトリウム、KCJ-1304株を利用して生産された5'-グアニル酸二ナトリウム、

(4) 平成２２年度及び平成２３年度採択食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果（案）について

- ・調査・研究企画調整会議座長の廣瀬委員及び事務局から説明があり、案のとおり決定。

第422回 ３月８日（木）

(1) 食品安全基本法第２１条第２項の規定に基づく委員会の意見の聴取に関する説明について

- ・消費者庁から報告。
- ・今般の変更の趣旨は、消費者庁設置に伴う形式的改正が大部分であり、改定案骨子を踏まえ、適切に変更されるよう、また、消費者庁において、食品安全行政の一層の推進のため、変更後の基本的事項に基づき、当委員会及びリスク管理機関との連携の強化を図るよう意見を提出することとなった。

(2) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

遺伝子組換え食品等（１品目）	除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ DP-356043-5
----------------	--

(3) 農薬専門調査会における審議結果についての報告

- ・同専門調査会から報告された以下の案件について、国民からの意見・情報の募集に着手することを決定。

農薬（２品目）	ホスメット、スピロジクロフェン
---------	-----------------

(4) 食品安全基本法第２３条第１項第２号の規定に基づき委員会が自ら行う食品健康影響評価について

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

新開発食品（１品目）	食品に含まれるトランス脂肪酸
------------	----------------

(5) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

農薬（１品目）	グルホシネート
新開発食品（１品目）	大人ダカラ

(6) 食品安全委員会の２月の運営について

- ・事務局から報告。

第423回 ３月15日（木）

(1) 各専門調査会における審議結果についての報告

- ・化学物質・汚染物質専門調査会及び遺伝子組換え食品等専門調査会から報告された以下の案件について、国民からの意見・情報の募集に着手することを決定。

化学物質・汚染物質（３品目）	水銀、クロロ酢酸、トリクロロ酢酸
遺伝子組換え食品等（１品目）	アリルオキシアルカノエート系除草剤耐性トウモロコシ40278系統

(2) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

農薬及び添加物（１品目）	アゾキシストロビン
新開発食品（１品目）	まめちから 大豆ペプチドしょうゆ

(3) 食品安全モニターからの報告(平成23年11月、12月分) について

- ・事務局から報告。

- (4) 食品安全関係情報(2月4日～3月2日収集分) について
- ・事務局から報告。

第424回 3月22日(木)

- (1) 食品健康影響評価の要請
- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

遺伝子組換え食品等 (1品目)	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ1507系統とコウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシB. t. Cry34/35Ab1 Event DAS-59122-7系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON810系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統とコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604系統からなる組合せのすべての掛け合わせ品種(既に安全性評価が終了した16品種は除く。)
--------------------	--

- (2) 食品健康影響評価
- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

添加物(1品目)	リン酸一水素マグネシウム
----------	--------------

- (3) 平成24年度食品安全委員会運営計画について
- ・事務局から説明。
本件については、案のとおり最終決定とすることとなった。また、意見募集手続において提出された意見に対する回答について、一部修正の上、公表することとなった。
- (4) 平成24年度食品安全モニターの依頼について
- ・事務局から報告のとおり依頼することとされた。
- (5) 食の安全ダイヤルに寄せられた質問等(平成23年12月～平成24年2月分) について
- ・事務局から報告。

第425回 3月29日(木)

- (1) 食品健康影響評価の要請
- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

農薬(4品目)	ビフェナゼート、プロヘキサジオンカルシウム塩、リムスルフロ ン、フェニトロチオン
農薬及び動物用医薬 品(1品目)	エマメクチン安息香酸塩

動物用医薬品（１品目）	ジルパテロール
-------------	---------

(2) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

添加物（１品目）	イソプロパノール
農薬（４品目）	シエノピラフェン、アセキノシル、シフルメトフェン、フェンブコナゾール
遺伝子組換え食品等（１品目）	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ1507系統とコウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシB. t. Cry34/35Ab1 Event DAS-59122-7系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON810系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統とコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR604系統からなる組合せのすべての掛け合わせ品種（既に安全性評価が終了した16品種は除く。）

(3) 食品安全関係情報（３月３日～３月１５日収集分）について

- ・事務局から報告。

2. 専門調査会の運営

(1) 添加物専門調査会

第104回 ３月27日（火）

- ・「Chryseobacterium proteolyticum 9670 株を利用して生産されたプロテイングルタミナーゼ」について調査審議し、評価書（案）を食品安全委員会に報告することとなった。
- ・「β-apo-8'-カロテナール」について調査審議し、継続審議することとなった。
- ・「カンタキサンチン」について調査審議し、継続審議することとなった。

(2) 農薬専門調査会

第81回 幹事会 ３月２日（金）

- ・「アゾキシストロビン」、「スピロジクロフェン」、「ホスメット」及び「グルホシネート」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。
- ・「ペンチオピラド」について調査審議し、継続審議することとなった。
- ・「イソピラザム」について、検討の結果、評価第四部会において調査審議することとなった。
- ・「チアクロプリド」について、検討の結果、評価第三部会において調査審議することとなった。

た。

第15回 評価第一部会 3月7日（水）※非公開

- ・「イプフェンカルバゾン」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。ただし、確認事項に対する回答について評価部会で確認することとなった。

第14回 評価第二部会 3月19日（月）※非公開

- ・「フルオピラム」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。ただし、確認事項に対する回答について評価部会で確認することとなった。

第16回 評価第三部会 3月21日（水）※非公開

- ・「チアクロプリド」について調査審議し、継続審議することとなった。

第16回 評価第四部会 3月26日（月）※非公開

- ・「エトフメセート」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。
- ・「フェンピラザミン」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。

（3）動物用医薬品専門調査会

第138回 3月21日（水）※非公開

- ・「鶏大腸菌症生ワクチン」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

（4）器具・容器包装専門調査会

第16回 3月1日（木）

- ・「フタル酸ビス（2-エチルヘキシル）（DEHP）」について調査審議し、継続審議となった。

（5）化学物質・汚染物質専門調査会

第9回 幹事会 3月22日（木）

- ・「清涼飲料水中の化学物質（ホウ素、アンチモン、セレン、マンガン）の規格基準改正」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。
- ・「鉛」について調査審議し、鉛ワーキンググループによる一次報告の概要について報告された。今後、血中鉛濃度から摂取量への変換に関して新たな知見が蓄積された場合には、耐容摂取量の設定を検討することとされた。

（6）プリオン専門調査会

第69回 3月23日（金）

- ・感染実験等に関する科学的知見について説明がなされ、BSE感染牛脳幹100g投与の実験は現実とかけ離れたレベルの実験と考えられるが、飼料規制や発生状況等により牛群の感染状況を検証しつつ、野外感染との関係、組織の感染性やその時期の検討に必要な知見を整理・検討していくこととなった。
- ・BSEの発生状況について説明がなされ、日本の発生状況は、発症牛の誕生年でみた場合、

二つのピークがみられること、また、飼料規制直後の2002年1月生まれの牛を最後に、それ以降に生まれた牛には、この10年間BSEの発生はみられないことから、飼料規制等のBSE対策の有効性が確認されつつあると考えられることが確認された。

- ・日本のBSEの侵入リスク、規制等の情報について説明がなされた。
- ・これまで用いられた評価手法について説明がなされ、BSE非発生国に適用した「自ら評価」の手法を発生国に適用する上で検討が必要な事項について整理・検討することとされ、次回に具体的な評価手法について検討することとされた。

(7) 遺伝子組換え食品等専門調査会

第102回 3月14日(水) ※非公開

- ・「除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタGHB119系統(食品・飼料)」及び「除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズDP-356043-5(食品)」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。
- ・「除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシDP-098140-6(食品・飼料)」について調査審議し、継続審議することとなった。

(8) 肥料・飼料等専門調査会

第54回 3月27日(火)

- ・「オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、続いて農薬専門調査会で審議することとなった。
- ・「ドキシサイクリン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

3. 意見交換会の開催等

(1) 意見交換会

食品安全委員会セミナー「リステリア症 ―北米、欧州、豪州の経験に学ぶ―

3月28日(水) <東京都>

- ・バーバラ・メオン医師(米国疾病管理予防センター)、エーウィン・トッド博士(エーウィン・トッド・コンサルティング)、ペトラ・ルーバー博士(ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁)、トム・ロス博士(タスマニア大学/タスマニア農業研究所食品安全センター)、豊福肇専門委員(食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会)が、リステリア・モノサイトゲネスが原因で発症するリステリア症をテーマに、各国における発症動向、リスク評価及びリスク管理措置の現状等について講演。
- ・講演者と参加者との意見交換を行った。

(2) 講師等派遣

- ・地方公共団体や各種団体が企画した講演会等に委員が講師として参加した。

月 日	講演会名	対応委員
3月2日	秋田県食品安全セミナー	畑江委員